

菩提心をおこすといふは

おのれのいまだわたらざるさきに

一切衆生をわたさんと発願し いとなむなり

—道元禪師—

深い谷に架かった丸太の一本橋の兩岸から、偶然に二匹の雄鹿が渡つてきました。橋の中央でお互いに「自分が先だ！」と相手に引き下がるように譲らず、争いが始まり、ついに二匹とも角を絡めあったまま谷底に落ちてしまう……小学校の教科書にも載った事がある有名な話です。

なんて馬鹿な鹿なんだ、やっぱり動物は人間と違って愚かだ……果たしてそうなのでしょうか。

この教訓は今、まさに我々人間の愚かさを表しているように思われなければならないのです。特に最近、自分さえ良ければという考えが引き起こす卑劣な事件や、悲惨な事件が後を絶ちません。何事も自分の利益のみを追求して、他人を踏みつけにしている状況が進めば、人の絆は失われ、社会を支える土台が崩れてしまうことでしょう。

そうしてみると、この話は利己主義に対する戒めと、争うことで自分たちが置かれている状況が見えなくなってしまうことへの警告を論しているのだということが理解できると思います。

道元禪師は『自未得度先渡他』の心の大切さを説かれています。つまり、「自分の幸せは後にして、先ず他人を平和な心の生活に至らしてあげたい」という趣旨です。

菩提とは悟りの智慧を意味します。悟りの智慧、特に『利他』を強調した求道心が菩提心なのです。

もしも現代の生き方に心の拠り所が見えなくなってしまうとすれば、その時こそ『利他』のおさとしが光を放つ時でしょう。

真実の道理に生きようとする志こころをもつことを、仏教では発菩提心はつぼだいしんと  
 います。その根底には、みんながともに生きていくこの世の中だからこ  
 そ、他人を我が身に引き当てよ、という釈尊しやくそんのみ教えがあります。  
 表題のことは曹洞宗そうどうしゆの開祖、道元禪師だうげんぜんじの主著『正法眼蔵しやうぽうげんざう』の  
 発菩提心はつぼだいしんの中のことばです。自由とは「自らに由よ（拠）ること、けれども  
 拠るべき自分がエゴの自分なら、その自分の自由は、必ず他人の自由と  
 衝突する。ついには、お互いが不自由になってしまふことでしょう。  
 道元禪師は仏法そのものの教えを、独自のすることば（道得）を通してお  
 示しになっているのです。

菩提心をおすと  
 おのれはいまだ  
 わたしはまことに  
 一切衆生を  
 わたさんと発願し  
 りとなむなり

曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所

第五教区 布教部・出版部